

The background of the entire page is light blue and filled with numerous yellow cartoon characters. These characters are stylized, rounded figures with large eyes and small limbs. They are depicted in various dynamic poses: some are dancing, some are playing musical instruments like a violin, a piano, and a balloon, and others are simply running or jumping. The characters are scattered across the page, creating a lively and festive atmosphere.

# アトリエ ムジタンツ

2019-2021 年度 記録集  
～ムジタンツとなかまたち～



## ムジタンツとは

音楽(Musik)とダンス(Tanz)を組み合わせた造語。両者を軸としながら、そのほか様々な要素を取り入れた体験型プログラムを開発しています。

クラシック音楽の作品を題材として、聴いて、遊んで、楽しみ、探求することで、作品との「対話」を目指すとともに、価値観や創造力を広げていけるようアプローチしています。

※2018年、東京藝術大学一般公開講座「藝大ムジタンツクラブ」として活動開始。

# ムジタンツのプログラムのながれ

ムジタンツでは参加者が無理なくプログラムを体験できるよう、段階的にステップを踏みながら進んでいくことを心がけています。ここでは、基本的な進行をご紹介します。

# ムジタンツのプログラムのながれ

## 1 ウォームアップ



### POINT

- ・まずはその場にいる人たち同士で会っていき。
- ・身体を動かしながら耳をひらき、心や思考もほぐしていく。

まずは、はじめまして。  
 今日はどんな人が参加してくれているのか、お互いに少しずつ知り合いながら、わくわくとプログラムを始められるようにしています。

## 3 メインのワーク



### POINT

- ・様々な方法で音と関わり、音楽を体感的に味わってみる。
- ・多様なものが見かたや考えかたを体験してみる。
- ・音楽家の創造のプロセスを追体験してみる。
- ・言語と非言語、両方をつかったコミュニケーションを試みる。

いよいよ本編へ。  
 作品の素材そのものにふれられるような体験を目指して、アクティビティを行います。

## 2 テーマを発表



### POINT

- ・音楽と、まずは出会ってみる。

その日のテーマとなる楽曲との出会い。  
 会話をしながら、楽曲の一部分を切り出して一緒に聴いてみたり、作曲家について紹介したりします。作曲にまつわるエピソードや作曲家の生い立ちなどについてお話することもあります。

## 4 まとめ、振り返り



### POINT

- ・自分の体験について伝えてみたり、他の人のことを知ったりする。
- ・プログラムを体験する前とは違った聴きかたで、楽曲を味わってみる。

最後に、今回のプログラムがどうだったか、振り返ります。  
 そして改めてもう一度、テーマとなった楽曲を鑑賞してみます。



## アトリエ・ムジタンツとは

「ムジタンツ」は、発起人である酒井と山崎が互いの専門性を持ち寄りながら、音楽と身体表現を融合させて開発しているプログラムです。

その企画立案から実施にいたるプロセスに、さらにたくさんの人々が関わっているのが「アトリエ・ムジタンツ」。公募で集まった様々なメンバーが携わっています。

また、このプロジェクトは足立区、墨田区、台東区と連携して行われました。プログラムは各区それぞれでのヒアリングを通して立案され、区の担当課や実施先の人々の協力のもとで実施にいたります。

アトリエ・ムジタンツは、2019～2021年度にかけて、文化庁大学における文化芸術推進事業「2020の先にある新たな文化政策を実現するための広域連携について思考し実践する人材育成講座 Meeting アラスミ！」実践編①として実施しました。

## アトリエ・メンバーたち

アトリエ・ムジタンツでは、クラシック音楽の酒井、身体表現の山崎、ワークショップデザインの石川がそれぞれの分野を越境し、アーティスト／コーディネーター／事務局の役割もまぜこぜにしながら、自治体職員の方や実施先のスタッフの方、そして公募で集まったメンバーとともに考える場づくりを行ってきました。メンバーたちの関わりかたや、その度合いは人それぞれ。実施における現場での役割も様々でした。ここではアトリエ・ムジタンツに関わってきた人々を「アトリエ・メンバー」としてご紹介します。

### 事務局メンバー



#### 酒井 雅代

桐朋学園大学、同大学研究科修了（ピアノ専攻）。室内楽を主とした演奏活動を行う。各方面で音楽ワークショップやファシリテーター・トレーニングの企画・運営に携わる。2018年東京藝術大学一般公開講座「藝大ムジタンツクラブ」を開始。クラシック音楽と身体表現の要素を混ぜて遊ぶ、新しい形のアートプログラムを提案・実践している。アトリエ・ムジタンツでは通称「まさよさん」。



#### 山崎 朋

東京藝術大学音楽環境創造科卒業、同大学院芸術環境創造分野修了。パフォーマンス・身体表現を専門としながら、身体にまつわる様々なものの関係性や、日常にある“場”と“ふるまい”に着目。他分野とのコラボレーションによる作品制作やワークショップなどに広く携わっている。2018年より酒井とともにムジタンツを開始。アトリエ・ムジタンツでは通称「ともさん」。



#### 石川 清隆

公共ホール職員時代に音楽・演劇などのワークショップ（WS）に興味をもち、WSと社会との繋がりを探求し、青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラム（履修証明プログラム）を修了。ワークショップデザイナー®、コーディネーター。藝大ムジタンツクラブなどを手伝い、その後アトリエ・ムジタンツに加わる。アトリエ・ムジタンツでは、学びの場づくり、テクニカルなど裏方的な部分を担当。アトリエ・ムジタンツでは通称「きよさん」。

### サポートメンバー



南條 由起  
（ヴァイオリニスト/  
ファシリテーター）



長津 結一郎  
（評価ファシリテーター）



鐘ヶ江 織代  
（ドキュメンテーション担当）

### ムジタンツとは



### アトリエ・ムジタンツとは

足立区、墨田区、台東区の三区と連携し、多様なメンバーとともに企画から実施まで行うプロジェクト。

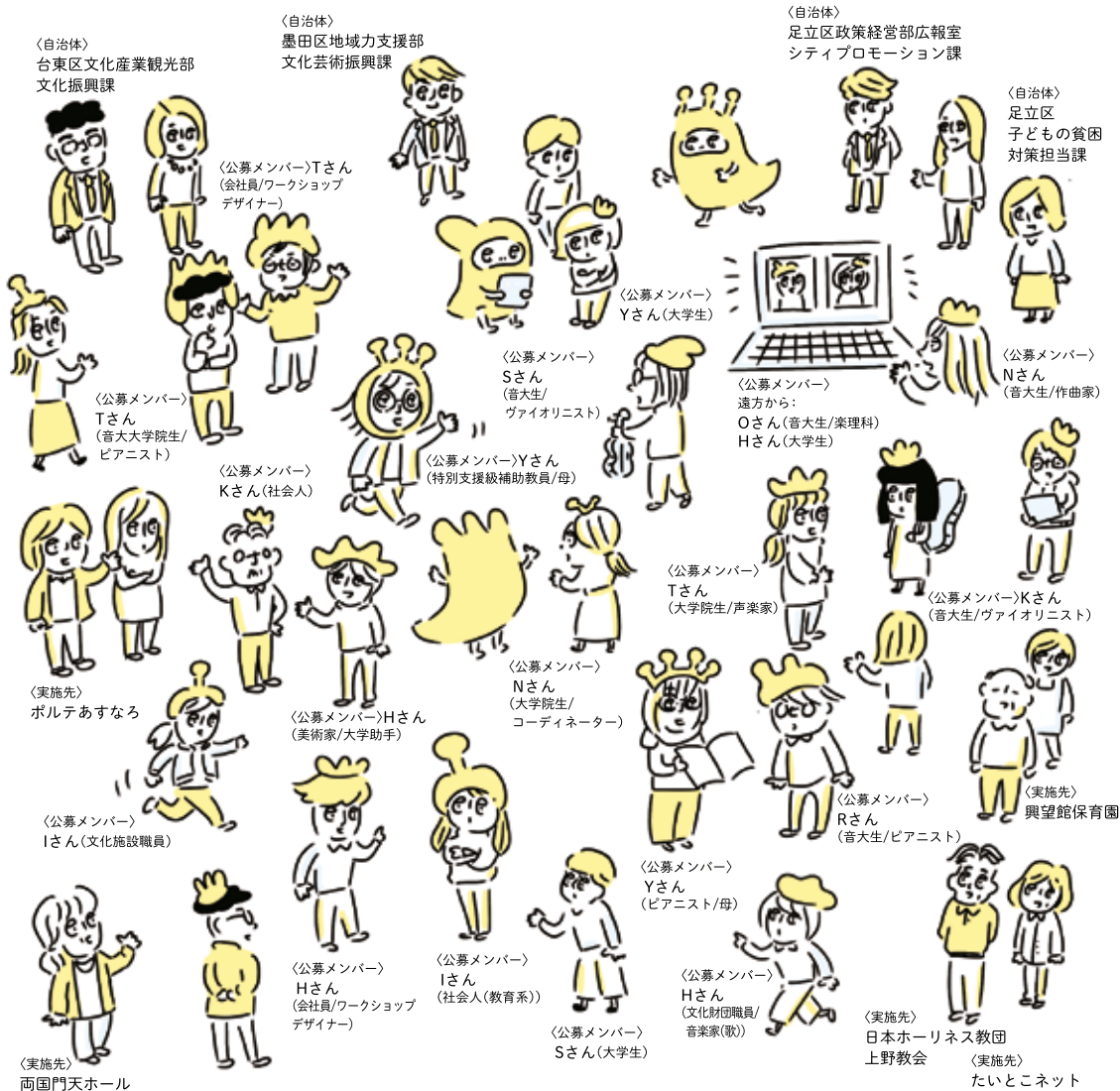




アトリエ・メンバーたち

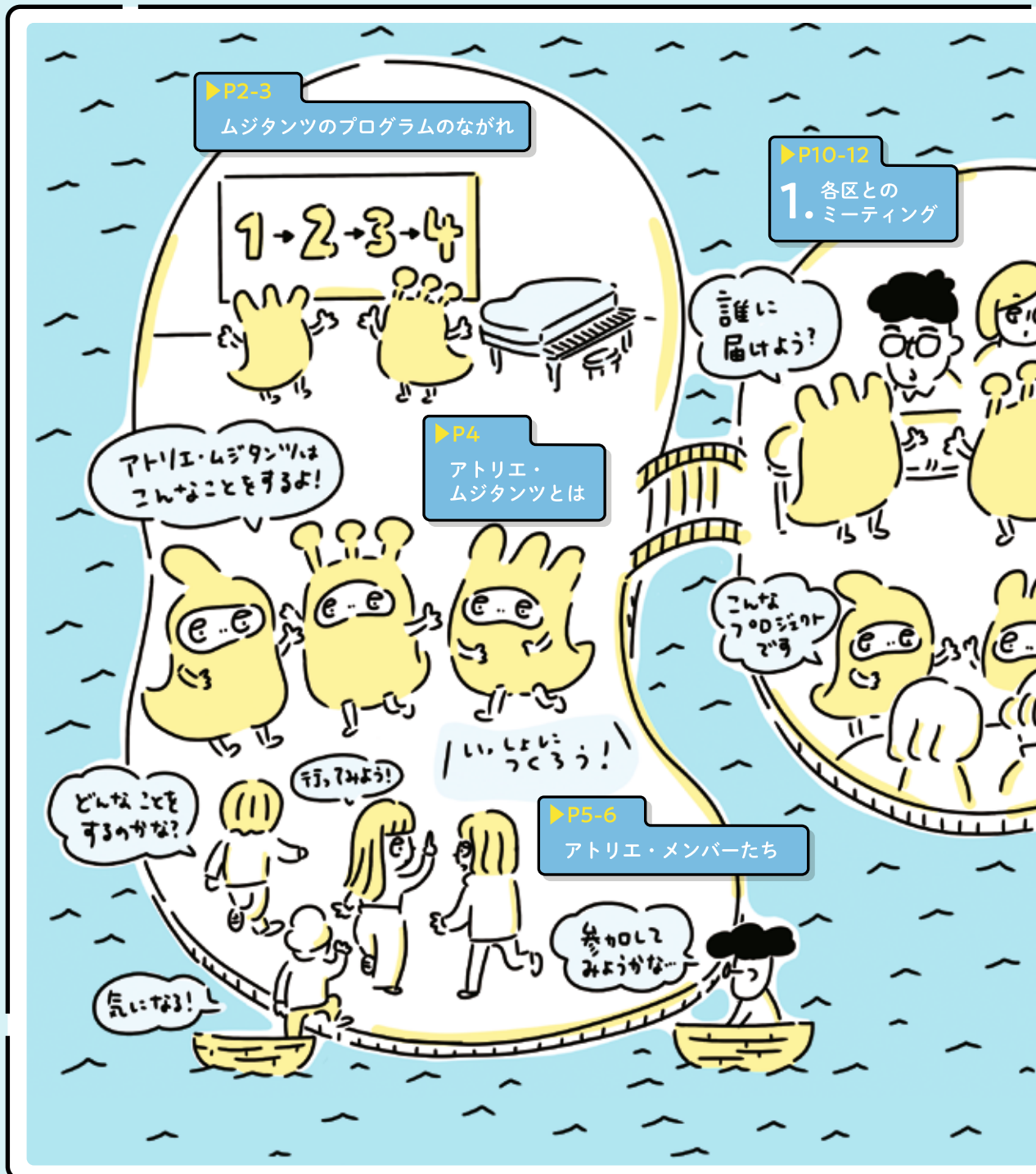
公募メンバーと協力自治体、実施先

3年間で総勢58名の公募メンバーにご参加をいただきました。スペースの都合上全ての方を描くことはできませんでしたが、何卒ご了承ください。

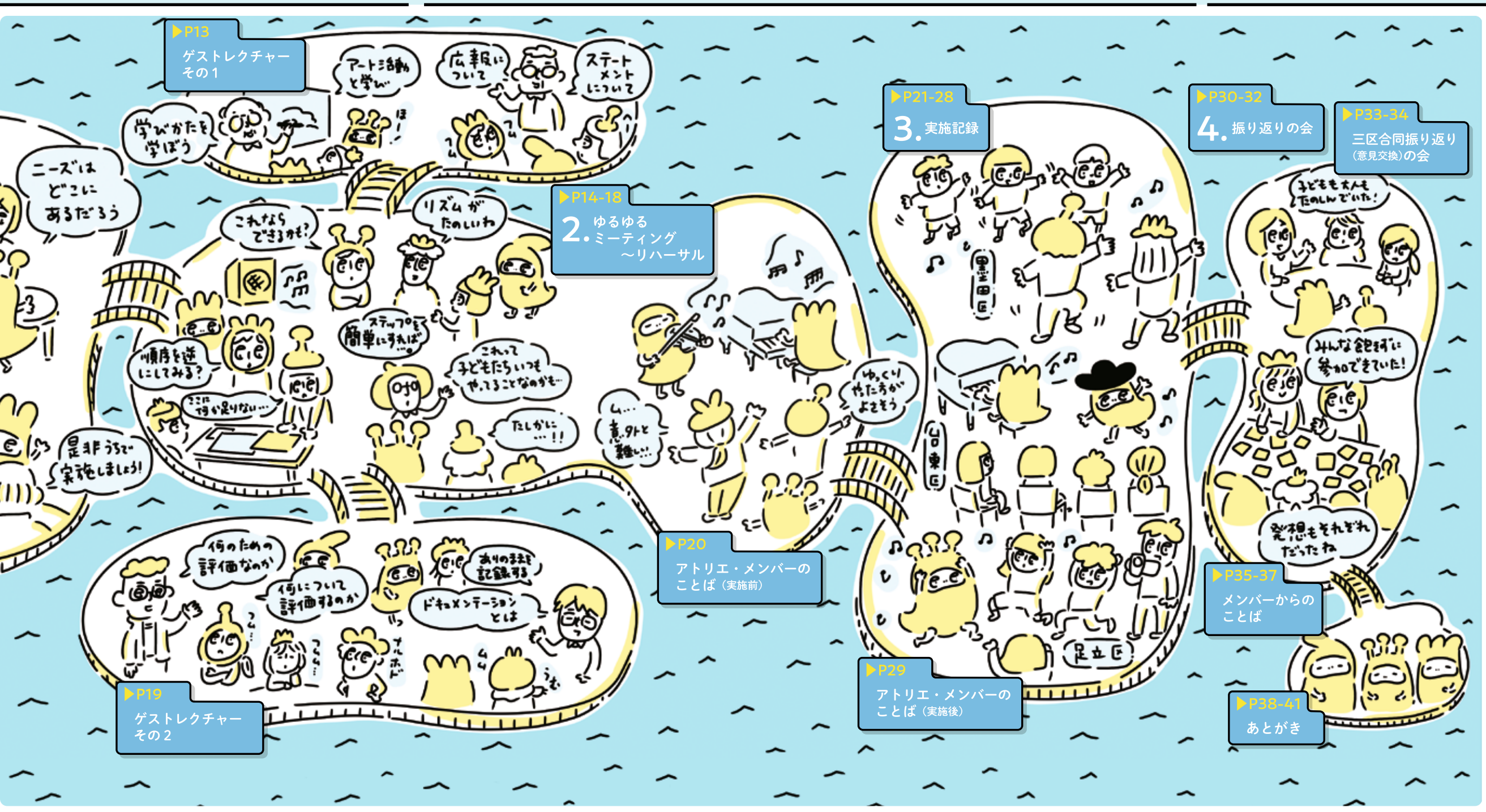


アトリエ・ムジタンツの進みかた

年度ごとに三区それぞれでのプログラム実施を目指し、実現するために必要なプロセスをみんなで辿っていきます。









# 1. 各区とのミーティング

まずは各区の担当者を訪ね、地域の状況についてヒアリング。それぞれが抱える課題やニーズをお聞きしながら、プログラムの実施場所や対象について検討し、連携先をご紹介いただきます。

## 墨田区 (2019年度)

ポイント：  
すみゆめと連携、保育園年長さん向け

**興望館の館長さんとの出会い**

1 墨田区の担当者を訪ね、事務局メンバー。ムジタンツとは何か、墨田区理事長さん。子ども向け、地域にやりがい。ムジタンツが何なのかうまく伝えられない中、墨田区内のアート活動を支える「すみゆめ」の寄合に事務局メンバーが参加することに。

2 すみゆめと連携してみますか？

3 すみゆめ寄合にて。ムジタンツではこんなことをしています。前のMJI、うちでやろうよ！ 興望館の館長さん。館長のやる気、引き込まれる興望館。ムジタンツと事務局メンバー。一緒にやろうよ！

4 是非子どもたちの普段の様子を見にくるといいよ。ありがとうございます！！

すみゆめ寄合で出会った興望館保育園の館長さん。ムジタンツの実施にともなう前向き。まずは興望館を見学する約束をしてこの日は終了。

※「隅田川 森羅万象 墨に夢」通称:すみゆめ 墨田区の隅田川流域を中心に開催されているアートプロジェクト。「北斎」や「隅田川」にちなんで企画を行うほか、人々が集って相互に学び、交流する場も創出している。



墨田区 地域力支援部  
文化芸術振興課  
担当者さん

- ・広く公募をするよりも、特定の層に届けるべきという問題意識がありました。
- ・部長が以前、子ども・子育て支援部に長く在籍していた関係で、子どもの貧困問題を課題として挙げていました。そのこともきっかけとなり、「すみゆめ」の寄合の会場になった興望館保育園をムジタンツに紹介しました。

# 1. 各区とのミーティング

## 台東区 (2019年度)

ポイント：  
とにかく楽しんで参加できること、クリスマスにちなんだ内容

**たいとこネットさん、上野教会牧師さんとの出会い**

1 うーん、たいとこネットさんってどうなの？ 台東区担当者さん。うーん... うちの子どもたちは難しいかな？

2 日本ホーリネス教団 上野教会 牧師さん。たいとこネット担当者さん。まずは台東区の担当者と相談。たいとこネットさんを紹介してもらおう。たいとこネットさん、日本ホーリネス教団 上野教会の牧師さんと会いに行く。ムジタンツの説明をすれば、開催への実行はあやしい...

3 あー、私、ピアノ弾くのが得意！ CDでは聞くだけでいいよ。え！ 生演奏なの？ **生演奏!!** 音楽大好き！ うちで是非やりましょう!!

4 クリスマス的な楽しい内容で！ ちがみにてっぺんを見せてね。2Fの礼拝堂には楽器がたかさん。

しかしムジタンツが「生演奏で」行なわれると云えたことで、一気に開催の方向に話が進む。

※「NPO法人 台東区の子育てを支え合うネットワーク」通称:たいとこネット 地域で子どもを育てる社会づくりを目指し、子ども食堂・無償学習支援・親子のふれあいサロン・自然体験・子育て関連の勉強会などの活動を2003年より行っている。日本ホーリネス教団上野教会を会場に「下町子ども食堂」を実施。(2022年3月現在、「下町子ども食堂」は新型コロナウイルス感染症予防の観点から活動休止中。)



台東区 文化産業観光部  
文化振興課  
担当者さん

- ・課長が以前子ども食堂の担当をしており、関係各所との繋がりがありました。
- ・こだわったのは、現場で行うということ。公民館等でイベントのために集合して実施するのではなく、子どもたちが普段過ごしている場所で実施することでした。
- ・開催にあたり、子育て・若者支援課に相談に行きました。区内で開かれています子ども食堂の中で、会場の広さなどを含めて検討し、たいとこネットさんにお声がけすることにしました。



足立区 (2019年度)

ポイント：  
子どもの貧困対策、自己肯定感



足立区 政策経営部広報室  
シティプロモーション課  
担当者さん

・前々から注力していたこともあり、子どもの貧困対策担当課に声をかけました。  
・将来的に学校教員を巻き込みたいという（ムジタンツ側の）要望を受け、ミーティングには教育委員会指導主事にも参加してもらいましたが、学校側の業務量の多さを考えると連携の実現は大変。ただ、実施時には見学いただけるようにお声がけをしたいと思います。

LECTURE

ゲストレクチャーその1

プログラムを誰に向けてどのように届け、またどうやって振り返るのか……様々な方のお知恵を拝借すべく、ゲストを招き、広報・効果・学習・省察などをキーワードにレクチャーや勉強会を開催。事務局メンバー・公募メンバーがともに受講しました。

阿南さんの回 (広報)



講師：阿南 一徳  
東京藝術大学演奏芸術センター准教授

「広報」について基礎から知るべく、阿南さんを講師にお招きしました。2019年度には「宣伝」と対比しながら「広報」の意味するところを考えたり、分かりやすく伝えるための文章のポイントについて学んだほか、架空のコンサート開催を設定して広報のありかたを具体的に検討してみるロールプレイワークも行いました。



また、2020年度には活動を第三者に伝えるための「ステートメント」についてのレクチャーも受け、演習としてそれぞれが書いた文章へのフィードバックもいただきました。

荻宿さんの回 (学びかたを学ぶ、アート活動と学び)



講師：荻宿 俊文  
青山学院大学学習コミュニティ研究所所長・同大学社会情報学部教授・東京藝術大学芸術情報センター非常勤講師

ムジタンツのプログラムについて「学び」の観点から考察するため、荻宿さんを講師にお招きし、学習論に関するレクチャーを開催しました。2019、2020年度には芸術表現体験活動を「学習」としてとらえる考えかたや、ワークショップの背景理論、ワークショップの現場とその評価についてなど、コンセプトワークを挟みながらご紹介いただきました。また、芸術表現体験活動を学校教育の中で実践している例についても学びました。



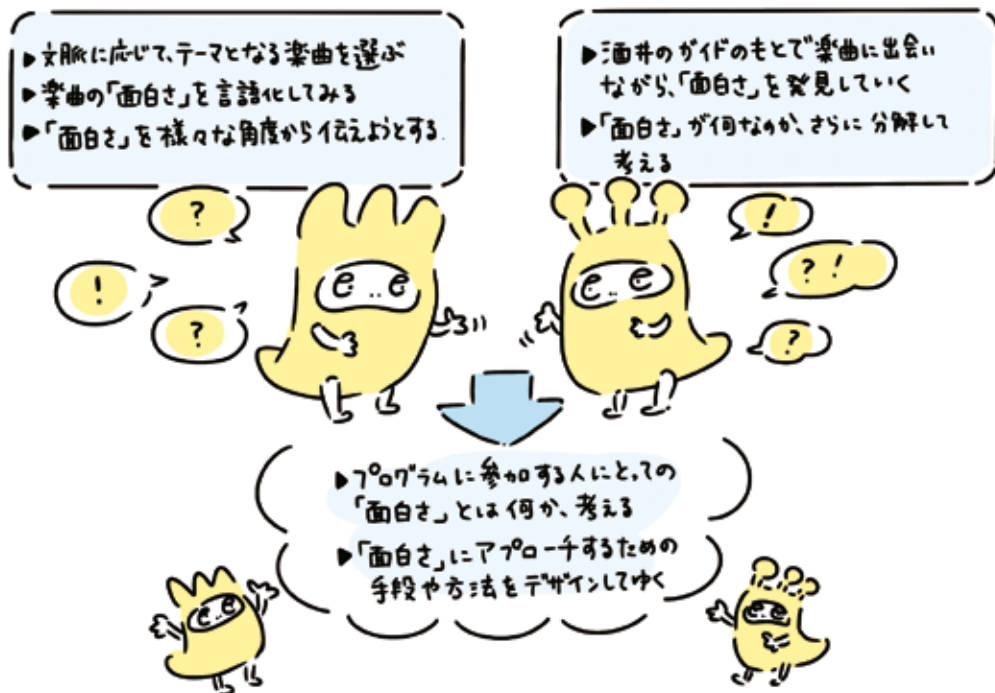
2021年度には三区合同振り返りの会にもご登場いただき、アトリエ・ムジタンツの3年間の活動プロセスやプログラム実施の現場で起きていたことについて分析いただきました。

## 2. ゆるゆるミーティング～リハーサル

各区でのミーティングを経て、「ゆるゆるミーティング」へと進みます。ここではメンバーとともにプログラム実施における文脈や目的を整理し、参加者に思いを馳せながらアイデアを出し合います。その後、リハーサルで実際に動きながらアイデアを試し、プログラムの修正を重ねたり、ファシリテーションの方法について探っていきます。

### プログラムづくりのプロセス

ムジタンツのプログラムをつくるにあたり、酒井と山崎は毎回このようなプロセスを辿っています。



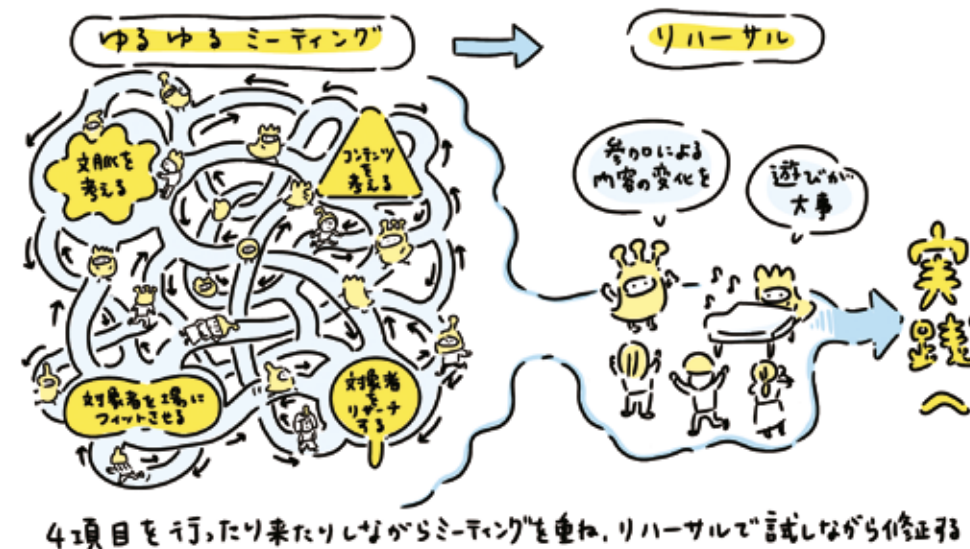
#### ここで大事にしてきたこと

- ▶ 「面白がり」ポイントは、あくまでも人によって様々であるということを前提にする
- ▶ 参加する人自身が「面白さ」を探索できるよう、プログラムに余白や可変性をもたせる
- ▶ ただし、自由であることによる過度な戸惑いが生じないように配慮する
- ▶ いつでも古典（＝クラシック音楽）に戻ることができるようにする

アトリエ・ムジタンツでは、このプロセスに公募メンバーが加わります。それを「ゆるゆるミーティング」と名付けました。

## 2. ゆるゆるミーティング～リハーサル

### ゆるゆるミーティングのイメージ



### よりみちから生まれる面白さ

1 まずは各区とのミーティングで出た言葉と意見を公募メンバーと共有。

ゆるゆるミーティングの良さは、何と言っても「よりみちの余白」があること。ここから面白いアイデアが生まれる。

2 「クリスマス、いいことだね...のかな...?」  
「まず楽しむことが最初の...」  
「700-700にばかりいる子たちとできる...?」  
「これとそ...」  
「ここより...」  
「大変だ! まとめてきな」  
「700-700...」  
「気がつくともどまる企画」

3

ひとつのプログラムを具体化するまでに、数回にわたり何時間もかけて行われる「ゆるゆるミーティング」。多様な価値観や背景をもつメンバーそれぞれの観点（「分からない」ポイントや「面白がり」ポイントなど）を共有し合いながら、アイデアを少しずつ具体化していきます。ときには大きく脱線もしつつ、みんなで徐々に道なき道を踏みならしていくようなこの時間を大切にしていました。



墨田区 (2019年度)



興望館での見学を経て、以前行ったことのあるパッパ作曲《インベンション 8 番》を題材にしたプログラムをベースとすることにしました。3つのモチーフが並び、それらが2声のポリフォニーになっているという楽曲の構造に着目。まずはゲーム感覚で遊びながらモチーフに耳馴染んでもらい、さらに音型を身体の動きに置き換えてオリジナルダンスにするグループワークを通して、より能動的に音楽にふれる体験を目指しました。子どもたちの好奇心にいかにして火をつけるかということ、また、ダンスを「つくる」活動に向けての段階的なステップづくりに気を配りました。

ゆるゆるミーティングに参加していなかったメンバーには、子ども役としてリハーサルに加わってもらいました。あれこれ率直な意見を出し合いながらプログラムを練っていく作業は、アトリエ・ムジタンツのメンバーにとっても重要な試行と学びの機会になりました。

台東区 (2019年度)



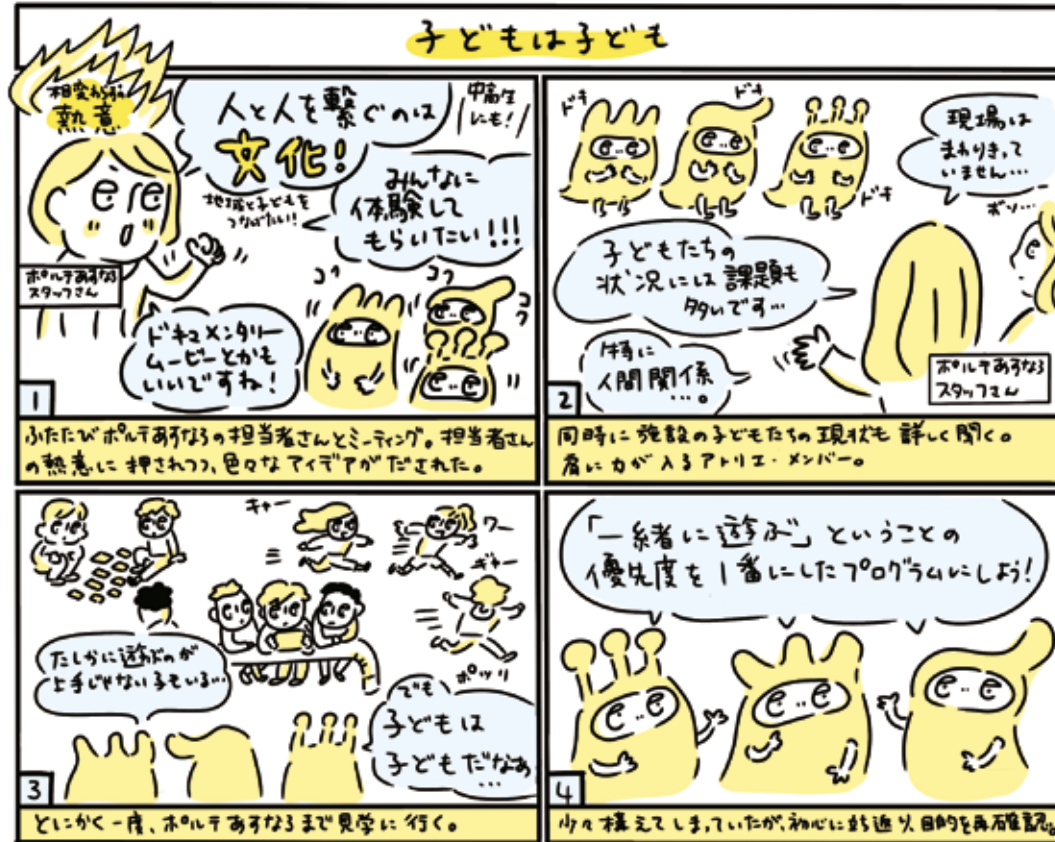
牧師さんのお話を受け、とにかく子どもたちが抵抗なく音楽を楽しめるような内容にしよう、そして季節のイベント「クリスマス」を感じられる会にしよう、という出発点からプログラムづくりがスタート。まさにクリスマスにちなんだ作品である、チャイコフスキー作曲のバレエ音楽《くるみ割り人形》を題材とすることにしました。

ときには子どもたち自身も物語の世界の一員……いわばプレーヤーになれる場面をもてないだろうか? と目論みつつ、その一方で、無理に参加型にするよりも鑑賞すること自体を楽しめたほうが良いのではないかと、とも考えていました。最終的には、その両方を体験できるようにバランスを整えていくことに。

ミーティングを進めるうちに気がつけばメンバーのほぼ全員が登場人物に扮することになり、にわかに「劇団ムジタンツ」化する一同。本番に向け、綿密なりハーサルを重ねることとなりました。



足立区 (2020年度)



2020年、新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムについては対面実施・オンライン実施の両方の可能性を考えながら準備を進めました。ゆるゆるミーティングやリハーサルも一部オンラインで。慣れない環境でのやりとりには難しさがあった一方で、オンライン会議システムの活用により実施先とのミーティングに公募メンバーが参加しやすくなり、遠方からの参加も可能になるなど、新たな回路もひらけました。

題材には、ふたたびバッハ作曲《インベンション8番》を設定。継続性もちたいという観点から、全3回にわたる実施としました。内容はより「遊び」の要素を重視して組み立てなおし、できる限り子どもたち一人ひとりの興味や特性に応じられるよう柔軟性の高いプログラムを目指しました。

また、年齢層が幅広い(幼稚園年長～高校生)ことも私たちにとって新たな挑戦でした。みんなでひとつの場を共有しながらも、それぞれの役割で参加できるよう配慮しました。

実施の様子は P26 へ!



ゲストレクチャーその2

プログラムを「やりっぱなし」にしないために、今後の糧にしていくためにはどんなことが必要なのか……さらに様々な方のお知恵を拝借すべく、ゲストを招き、価値・評価・記録などをキーワードにレクチャーや勉強会を開催しました。

長津さんの回(評価)

講師：長津 結一郎  
九州大学大学院 芸術工学研究院助教  
(アートマネジメント、文化政策、芸術社会学、芸術と社会包摂)

ムジタンツのような活動の価値をどのように言語化できるのか、その方法を探るべく長津さんを講師にお招きしました。2020年度は「評価」を行うにあたっての基本的な考えかたや具体的な事例を参照しながら、参加型評価の手法について学びました。何のために評価するのか、何について評価するのか、評価にはどのような方法があるか、そもそも芸術文化のプログラムを評価するとはどのようなことか、などについて考えました。



2021年度にはアトリエ・ムジタンツの足立区でのプログラムを対象として、実施前に評価のロジックモデルを作成し、実施後にはその検証を事務局メンバー・公募メンバーがとに行いました。

鐘ヶ江さんの回(ドキュメンテーション)

講師：鐘ヶ江 織代  
インディペンデントリサーチャー、パレイドリアン代表

鐘ヶ江さんを講師に迎え、ドキュメンテーションについての勉強会を実施しました。

「おこっていることを、ありのまま記録する」というドキュメンテーションの意義や、その手法について学び、また、サンプル映像を見ながらその様子を文字で書き起こし、メンバー同士で読み比べてみるという演習を行いました。この演習を経て、2020、2021年度の足立区実施では現場でのドキュメンテーション記録を行い、振り返りやロジックモデルの検証のための素材として活用しました。



また、鐘ヶ江さん自身もアトリエ・ムジタンツのドキュメンテーション担当として、ゆるゆるミーティングからリハーサル、プログラム実施、振り返りの会にいたるまでのプロセスに並走してくれました。

## アトリエ・メンバーのことば（実施前）



Yさん

私はひとりでやるのが多かったのですが、色々な人とやることで出てくるエネルギーみたいなものをとても楽しみにしています。



Yさん

初めてのメンバーとの実施、とにかく呼吸を合わせる。

私自身ワークショップに参加するのが初めてで、何をどのように行うのかまだ分からない。



Tさん

こんなに音楽と身体の面白いところって色々あったんだ、っていう発見がすごく多く……実際にやってみてどうなるか、まだ想像できてないところもある。

芸術から得る技術を、どうやったら作品をつくる以外の人たちにも意義のあるものだと思ってもらえるかな？



Hさん

今までずっとコンクールや演奏会でピアノを弾いてきたけれど、社会の中で音楽をどう扱っていくのか、という分野にはふれたことがなくて。子どもたちとふれあったときにどういふ化学反応がおきるのかな。



Rさん

クラシック音楽って難しいとか、学校の授業で聞いたなっていう感じだったのですが。楽しく聴く方法があるんだったら、自分の楽しみを増やすひとつの方法として、参加者の方々と一緒に学びたいな。



区の担当者さん

実施内容が難しくはないだろうか？



Tさん

自分だけのために用意される時間は、すごく贅沢なもの。特別感を感じてもらえたらいいな。

実際に音楽を学んできた方がやるワークショップってどういうのなんだろう。

表現することが子どもたちの自己実現にも繋がる。潜在的な「表現希求性」を引き出すため、人と人、人と地域を繋げるためには、仕掛けや仕組みが必要。

どんな役割であっても得るものがあると感じている。何でもこい！



ポルテあすなろスタッフさん

新型コロナウイルスの情勢が1年以上つづいて、オンラインでの受動的な視聴に慣れてきた子どもたちが、動きや会話が発生する能動的なアクティビティになったらどういふ反応をするんだろう。



Iさん

### 3. 実施記録





実施日：2020年1月22日（水）、24日（金）各9:45～11:30

※各日とも45分間のプログラム×2グループ

場所：興望館保育園

対象：興望館保育園に通う子どもたち（年長組32名）



### 【プログラム】

#### 1日目

- ・バッハのガヴオットで「ごあいさつのダンス」
- ・バッハさんの紹介
- ・クアドリペットでポリフォニーを体験
- ・《インベンション8番》のモチーフでカルタゲーム
- ・《インベンション8番》のモチーフでフルーツバスケット
- ・ムジタンツ版「インベンション8番のダンス」を見てみよう

#### 2日目

- ・1日目の振り返り
- ・バッハのガヴオットで「ごあいさつのダンス」
- ・音に合わせて動いてみよう：上行音型、下降音型、クルクル旋回する音型
- ・グループワーク：「インベンション8番のダンス」をつくらう
- ・ミニコンサート  
 バッハ作曲《インベンション8番》  
 バッハ作曲〈バルティータ3番〉より《ガヴオット》  
 バッハ/グノー作曲《アヴェ・マリア》

2021年度には大人を対象としたパイロットプログラムも実施しました。

実施日：2021年11月26日（金）14:00～16:00

場所：両国門天ホール

対象：墨田区・台東区の担当者、東京藝術大学学生、文化施設や財団の関係者、知人など(9名)

使用楽曲：ブラームス作曲《ヴァイオリンソナタ2番》1楽章



このプログラムは、バッハの音楽がもつ構造の面白さをテーマとしています。小さなモチーフ(アイデア)が積み上がり、展開されていくプロセスを体験することで、子どもたちに楽曲の構造を体感してもらい、面白がってもらうことを目指しました。

1日目、まずはアトリエ・ムジタンツのメンバーと子どもたちが知り合うことから始めるため、「ごあいさつのダンス」でスタート。バッハさんの紹介をしたり、みんなで歌ってポリフォニーの体験をした後、《インベンション8番》の3つのモチーフを用いてカルタやフルーツバスケットをアレンジしたゲームで遊びました。このゲームで《インベンション8番》の素材を繰り返し耳にすることで、自然に楽曲に親しんでもらうというねらいがありました。3つのモチーフを最初から聴き分けることができる子どもそうではない子どももいる中で、遊んでいるうちに、だんだんみんなで分かってくるという時間を共有することができました。

2日目は、1日目に取り組んだ内容をみんなで思い出した後、ふたたび「ごあいさつのダンス」から。その後、様々な音の動きに合わせて即興的に身体を動かしてみるワークを行いました。いよいよメインのアクティビティとなるグループワークでは、1日目に耳馴染んだ《インベンション8番》の3つのモチーフを身体の動きに置き換えてみながら、オリジナルの「インベンション8番のダンス」をつくりました。出来上がったダンスを踊り終えた子どもたちが「オレ全部できた！」など嬉しそうに言ってくれていたことが印象的でした。

実施日：2019年12月18日（水）16:30～17:50  
 場所：日本ホーリネス教団 上野教会  
 対象：NPO 法人たいとこネットが運営するこども食堂や学習支援に集う子どもたち（小学1～6年生 12名）



【プログラム】

チャイコフスキー作曲《くるみ割り人形》より

第一部

- ・〈序曲〉
- ・〈行進曲〉
- ・〈ドロッセルマイヤーの登場〉
- ・踊りの情景より〈お人形さんの踊り〉、〈悪魔のパドゥ〉
- ・〈クララとくるみ割り人形〉
- ・〈夜の情景〉
- ・〈くるみ割り人形とネズミの王様の戦い〉

第二部

- ・〈トレパーク（ロシアの踊り）〉：コップを使ったダンス
- ・〈コーヒー（アラビアの踊り）〉：ゆっくりのダンス

第三部

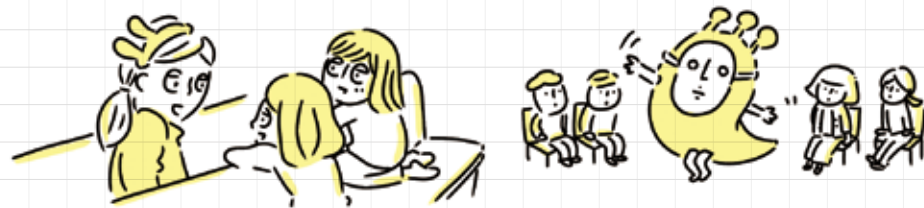
- ミニコンサート
- ・チャイコフスキー作曲：《なつかしい土地の思い出》より〈メロディー〉 Op.42-3
- ・バッハ/グノー作曲：《アヴェマリア》

このプログラムは、東京藝術大学一般公開講座「藝大ムジタンツクラブ」で行っていた「音楽と物語」シリーズをベースにデザインしました。チャイコフスキー作曲《くるみ割り人形》の音楽が描く世界を、物語の一部となりながら体験することを目指しています。

アトリエ・ムジタンツのメンバーは様々な登場人物に扮して子どもたちを迎え入れ、子どもたちには「シュタルバウム家のクリスマスパーティに招かれたお客さん」として参加してもらいました。第一部では、登場人物たちやストーリーテラーの語りによせて、ピアノやヴァイオリンの生演奏と一緒に、みんなで踊ったり、椅子取りゲームのような遊びをしたり、影絵を見ながら音楽と物語を鑑賞したり。子どもたちの動きや踊りとともに演奏する場面は、音楽家にとっても動的で楽しい時間です。

第二部ではテンポの対照的な2曲を用いて、普段やったことのないような身体の使い方に取り組んでみました。1曲目の〈トレパーク〉では、速いテンポによせて紙コップとボディパーカッションを使ったカップダンスに挑戦。2曲目の〈コーヒー〉では、コーヒーの木がだんだんと成長する様子をイメージしながら、ごくゆっくりした動きにトライしました。遅れてきた男の子が『コーヒーの踊り』を「オレ、ここで見てる」と言ったときに、「じゃあ監督ね！」と切り返した山崎。その男の子は嬉しそうにカチンコをしてくれました。

物語の最後には、みんなで2階の礼拝堂へと移動。一歩足を踏み入れるだけで空気の違いを感じられるような空間で、ミニコンサートに耳を傾けました。演奏が終わった後には、自然と周りの人との談笑が始まっていたことも印象的でした。





## 実施記録【足立区】

**実施日**：2020年12月19日（土）14:00～17:00  
2020年12月29日（火）14:00～16:45 ※約30分間のプログラム×4グループ  
2021年1月9日（土）14:30～16:00 ※約20分間のプログラム×3グループ

**場所**：母子生活支援施設 ポルテあすなろ、オンライン（2日目のみ）

**対象**：母子生活支援施設 ポルテあすなろに入居中または入居経験のある子どもたち（プログラム参加：年長～小学6年生7名、見守りと撮影：中高生4名）



### 【プログラム】

#### 1日目

- ・バッハ作曲《ヴァイオリンソナタ 4 番》でウォームアップ
- ・バッハ作曲《インベンション 8 番》で音のアスレチック

#### 2日目

- ・モーツァルト作曲《きらきら星変奏曲》でウォームアップ
- ・藝大リモートツアー「ムジタンを探せ！」

#### 3日目

- ・「過去の国」：1日目、2日目の様子を写真と映像で振り返り
- ・「寝て聴く国」「ゆれて聴く国」「踊って聴く国」：聴きかたをを選んでのミニコンサート

このプログラムは新型コロナウイルス感染症の流行下で構想・実施されました。これまでムジタツのプログラムでは参加者と近い距離になるような活動が多々ありましたが、この状況においては密集・密接などの感染リスクをできるだけ避ける必要がありました。

題材は2019年度に興望館保育園で実施した際と同じく、バッハ作曲《インベンション 8 番》。1日目、いっそ「ソーシャル・ディスタンス」を取り入れようと、楽しく距離をとる動作を使ってウォームアップをしてみました。その後、《インベンション 8 番》の3つのモチーフを用いた「音のアスレチック」(①音の玉入れ ②音のリボン ③音の落とし穴)に取り組み、音と身体の動きを連動させるなどして遊びました。ときには子どもたちのペースにも大きく巻き込まれながら、互いの関係性を築く時間になりました。

その後の急速な感染拡大を受け、2日目はオンラインでの実施とすることに決めました。ポルテあすなろと東京藝術大学千住キャンパスをオンライン会議システムで中継し、2～3人のグループごとにプログラムを行いました。モーツァルト作曲《きらきら星変奏曲》を用いてウォームアップをした後、子どもたちの指示にしたがってキャンパス内を探検する「藝大リモートツアー『ムジタンを探せ！』」に挑戦。

3日目は、プログラムを少人数かつ短時間で行う内容に改変し、対面で実施しました。「過去の国」と称したコーナーでは1日目の様子を記録写真と映像で振り返りました。その後、「寝て聴く国」「ゆれて聴く国」「踊って聴く国」の中からひとつ選んでもらい、それぞれのやり方で演奏を味わう時間をもちました。

2021年度には別プログラム「おひとりさまコンサート」も実施しました。

実施日：2021年11月13日（土）15:00～18:00

場所：ポルテあすなろ

対象：母子生活支援施設 ポルテあすなろに入居中または入居経験のある子どもたち（9名）

使用楽曲：バッハ作曲《インベンション 8 番》、シューマン作曲《子供の情景》より〈見知らぬ国〉、ドビュッシー作曲《子供の鎮分》より〈ゴリウオークのケークウオーク〉、バルトーク作曲《ルーマニア舞曲》ほか





# アトリエ・メンバーのことば（実施後）

クラシックを身体表現で、  
こうアプローチして切り取  
るんだ、と目から鱗！



Yさん

自分から動くプログラム参  
加者の姿勢は、ムジタンツ  
の空気感が引き出したもの。

コロナでなければお  
茶とお菓子が皆でく  
つろぎたかったなあ。



Tさん

参加の濃度を濃くしたり薄くし  
たりっていうのをある程度自分  
で決められたり、色んな濃度で  
人が集まっても OK だよ、  
という場をつくってくれている。

元気いっばいの子  
どもたちに戸惑う  
場面も……。

Tさん



インパクトのある事柄というのは自分  
の考えや想像の範囲を超えたものなん  
だのと、新しい発見がありました。



Iさん

子どもの思考がコロコロと展開して  
いくので、Zoom を使用してのやり  
とりではラグがある間に興味がほか  
に移ってしまいやすいのかな。

音楽だけじゃなく身体を動かしなが  
ら打ち解けていく感覚、ほぐれていく  
感覚というのは自分にとってとても良  
かった。そういう中で、知らない方も  
お話しできたり、場の空気感みたい  
なものを共有して（体験が）生まれ  
るんだ、ということも学べました。

両国門天ホール  
スタッフさん

音楽の仕組みがどうなっ  
ているのか、自分自身も  
動きやゲームを体験して  
みて分かった。

Tさん



その場所で体験しなけれ  
ば分からないことが学べ  
て有意義だった。

音楽のフルーツ  
バスケットが楽し  
かった。

みんなで作った  
のが楽しかった。

バッハさんは  
いつくるの？



興望館保育園の子どもたち

昔からの音楽が聴  
けてすごい。

自分はカメラをさわったことがなく、  
とてもきちょうな体験でした。ムジ  
タンツさんのイベントが楽しくて、  
カメラをもった自分でもわらって  
しまいました。

こっちもありがと  
うございました。



ポルテあすなろの子どもたち

またやりたい  
（それだけ）

子どもたちは身体で  
自然に覚えていた。  
（墨田 2019）



区の担当者さん



4. 振り返りの会

アトリエ・ムジタンツでは、プログラムの実施後や年度末などに幾度も振り返りを行ってきました。活動を通して何がおこっていたのか、それぞれの視点からの気づきや考えを共有しながら省察し、その後に繋げていくための重要な場となりました。

4. 振り返りの会

墨田区 (2019年度)

墨田区実施(興望館)振り返り

1日目終了後

先生たちと一糸者  
振り返りを行い、  
ホームアットのふりかけの  
簡略化を行った。



2日目終了後

たくさんの先生たちと  
一糸者に振り返りを行  
う。先生の目から  
見た子どもたちの  
反応を伺った。



その前後...

アトリエメンバーのみで  
振り返りの会を行った。  
子どもたちの反応の  
ほか、メンバー同士での  
所感を話し合った。



台東区 (2019年度)

台東区実施(上野教会)振り返り

実施終了後  
大学にて

メンバーが集まって  
「よかたこと」「課題は  
感じたこと」などを  
ふせんに書きだして  
いた。





4. 振り返りの会

三区合同振り返り(意見交換)の会

毎年度末には各区の担当者や関係者の方々にお集まりいただき、三区合同での振り返りの会を実施。それぞれが考えていた課題や、関係各所との連携のありかた、プログラムの実施の様子などについて共有し、次年度以降に向けての意見交換を行いました。

足立区 (2020年度)

足立区実施(ホリネス)振り返り

**1日目終了後**  
 唯一、公募メンバーもそこに  
 対面で行った1日目  
 振り返りに(20名  
 以上参加のため)開催  
 できなかった台東区文化  
 振興課の担当者さん  
 参加。

なにかは、全員を  
 見ることができ  
 ました。

中高生たちが  
 スタッフとして働いて  
 くれたことこそ  
 目覚めた!

中高生たちが  
 通じなげな行動が  
 あったということだね

「音楽」から「ダンス」まで  
 子がいてくれて、みんな最後まで  
 楽しんでいました

中高生スタッフも本意に  
 自主的に打ち合わせ  
 して来てくれた!

音楽とダンスを  
 取り入れることで  
 子どもたちも  
 すごく楽しんで  
 いたからね  
 よかったです

大変そうだけど  
 来年度は  
 開催  
 したい!

4-6を本意で  
 実行が通じ  
 面白い!

メンバーのほが  
 むしろ子どもたちの  
 ノーズに巻き込まれた  
 かんじだった!!

大人のせいでいることを  
 子どもはほんとは  
 見てる...!!

「4区合同」2回目あるの  
 って聞かれました

**2日目、3日目  
 終了後**

2日目、3日目の  
 振り返りは  
 Zoomを使ってホ  
 ラインとリアル  
 のハイブリッド形式で  
 行った。ホ  
 リネススタッフの2人  
 が子どもたちの  
 様子を伝えてくれた。

集団が苦手な子も  
 最後まで楽しんでた!

こんな風に密接な時間を  
 過ごしたことは今まで  
 なかったからね

学校で学んでいたと違っていて、  
 (ホリネスで学べることに近い)  
 状態で毎週で学んでいるので、  
 学校でと見えない違い  
 があったと思う。

「ムジタンツ」が「世に  
 広がっていく」と  
 良いと思います

区の異団体等関係担当者  
 と連携を続けています



墨田区 担当者さん

今年のムジタンツ(墨田区実施プログラム)は大人向け、将来的には高齢者向けも見越したプログラム開発ということで。単身の高齢者の方の「孤独」なども社会問題化していますが、こういったプログラムがあり、さらにそれを磨き上げていけば、無理矢理に交流をもたせるのではなく、ムジタンツのもとに集まって自然とコミュニティが形成され、社会課題の解決・解消にも繋げられるんじゃないかな、と思います。

言葉をつかわずにコミュニケーションをとれる。(今年度の墨田区実施プログラムでは)ジェスチャーとかいきなりふられて大変でしたけど、いま振り返るとそういったことを通して知らない人と打ち解けて、自然とコミュニケーションや会話が生まれたりして、会ったことのない人とも仲良くなれたりしました。今後もどんどん研究を続けて、より社会課題の解決などにも結びつけていただけたらいいなと思いました。

※2021年度振り返りの会にて



台東区 担当者さん

酒井さんたちにはけっこう無茶振りをしました。クリスマス仕様にしろとか(笑)。たいとこネットさんとホーリネス教会さんにご相談に行ったのは9月くらいでしたが、プログラムを組み立てるのには時間がかかるし、みんなが集まる食堂というのが1ヶ月に一度しかないということで、できるのは12月くらいかな、と。それなら、クリスマス仕様に盛り上げるか、という感じで……よくぞ物語にさせていただきました。ありがとうございました。

当日は私は序盤しかいられませんでした。みなさんすごく楽しんでくれて。物語の一部になるという経験はなかなかできないことだと思うし、牧師さんも満足いただいたみたいで、やれてよかったなと思います。教会でできたというのも、誇らしいというか。なんだろう、神聖な場所でできたというのが、非常に。その場でしかできない条件の中で、工夫してやっていただいたのがよかったのかな、というふうに思います。ありがとうございました。

※2019年度振り返りの会にて



台東区 担当者さん

牧師さんが最後のコンサートのとき、自らアンコールされてましたね(笑)。  
子どもたちもみんながみんな仲良しというわけではなかったのですが、始めは戸惑っているような感じが見えたんですけど、最終的にプログラムが終わってからは、みなさん楽しそうに「これがよかった」とか話している姿を見て。ああ楽しめたんだというのが伝わってきました。  
※2019年度振り返りの会にて



足立区 担当者さん

コロナの影響の中で、事務局のみなさんが思い描いていたものとは違ったかもしれないですが、子どもたちに体験活動をさせてあげられたというのは、すごく彼らの未来に投資ができたのかな、と思っているところです。  
足立区で1年間で文化芸術の作品にふれたことがある子ども(小学5年生・中学1年生)の割合が平成30年には89%というデータがあるんですけど、令和3年だと58%にまで落ちてるんですね。コロナの影響を大に受けているわけで、貧困の方だけではなく、子どもたちの文化芸術にふれる機会そのものが減っている。クラシックの音楽は劇場に行かないとなかなか聴けないと思うのですが、ハードルを下げて、こういうふう子どもたちに提供できたというのはすごく良いことだなと思いますし、今後もより広く提供できるワークショップとして継続的に続けていければいいな、と思いました。  
※2021年度振り返りの会にて



足立区 担当者さん

本当にコロナで、やりたいことのどれくらいだろう……ひよっとしたら10分の1もできていないのでしょうか？と思うんですけど、試行錯誤しながらなんとかやろうということで、進めていただけてすごくありがたかったと思います。最初に「子どもの貧困対策」にアプローチをしていただきたくらいということをお願いをして、その中でポルテあすなろさんとも繋がっていただき、スピノフで音楽家の野村誠さんまで来てくださり、「ながればし」という素敵な歌まで一緒につくっちゃうという、そういう一つひとつの小さな成果がやがて大きなものを生んでいくんだな、というふうに感じています。

「子どもの貧困対策」にアプローチするということはまだ道半ばだと思うので、今後もそれを続けていただきたい。何か協力できることがありましたら、どうぞよろしく願いいたします。お互いに探りながら、ベストな道を進んでいけたらいいなと思っています。  
※2021年度振り返りの会にて

サポートメンバー



南條 由起  
ヴァイオリニスト/  
ファシリテーター

プレコロナ～コロナ禍の3年間、プロジェクトのサポートとして、演奏とグループファシリテーションに携わりました。コロナ禍、刻々と変化する情勢、不確定要素も満載の中、実験の場でもあるアトリエ・ムジタンツは、ムジタンツ名物「ゆるゆるミーティング」を経て、笑いあり、モヤモヤあり、ヒヤヒヤあり、結果的には人間味あふれる実践になったのではないのでしょうか。

アトリエ・ムジタンツの「文化芸術×地域連携」3年間の取り組み事例の種が、多くの方々に届き、より良い社会実現の貢献に繋がりますように。



長津 結一郎  
評価ファシリテーター

アトリエ・ムジタンツのワークショップについて紹介するプレゼンを聞いて、これは面白い！と話しかけたことがきっかけで、2020年度より「評価」に関わらせていただきました。

この種のプロジェクトは、関わる人たちの立場によって、プロジェクトに期待するものが異なります。今回は、その異なりを共有して言葉にする、いわば「評価ファシリテーター」の役を買って出て、ムジタンツに関わる人たちがいつのまにか共有しているような、活動の面白みを可視化することをお手伝いしました。

もやもや、もやもやとあれこれ考えあぐねる、まさよさんと、ともさん。それにツツコミを入れて整理をしたり、別の視点から見えることを投げかけて反応を楽しんでいる、きよさん。関わるプロセスで感じたのは、そんな3人のチームのゆるゆるとした雰囲気に惹かれた人たちが、わきあいあいと集まっている姿でした。ワークショップそのものが参加した人たちに投げかけるものも多いけれど、活動を通じてそんな新しいコミュニティのようなものが立ち現れているのも、アトリエ・ムジタンツのもうひとつの魅力だなと思ったのでした。



鐘ヶ江 織代  
ドキュメンテーション担当

「ドキュメンテーション・チームをつくりたいんだけど、オリちゃん、やってくれない？」と、ムジタンツの3人に声をかけられ、1年目が終わる数ヶ月前にチームに加わることになりました。中に入ってみると、ワクワクと同時にドキドキ、ヒヤヒヤと感じる場面も多く遭遇しました。ムジタンツのワークは、参加者に寄り添うあまり本線から軽々と脱線し、蛇行しながらも柔らかに進んでいくからです。その驚きと戸惑いの感情は、学生、社会人、音楽家、教育者など、様々な背景をもつアトリエ・ムジタンツの受講生たちの、ゆるく、自由な、言い換えると混沌とした環境に身を置くことになった声にも表れていました。しかし、「今、ここで何が起きているか」を観察し、感情も含めて文字に残し、全員で共有し、検証することで、ムジタンツを含めた関係者全員が、それぞれの気づきを得て、自分たちなりに解釈を試みるプロセスが自然に生まれていったように思います。今回のドキュメンテーションという作業が、それぞれの活動に還元し得る、自らの力で獲得した学びの一助となったのであれば幸いです。



## 公募メンバー



Yさん  
ピアニスト/母  
2019-2021年度参加

体験をもって音楽や表現活動に関わるという点に共感してムジタンツに参加しました。ムジタンツはやりたいことや伝えたいことが明確で、コロナ禍にあってもその軸が変わることなく、制約に柔軟に対応してますます軸が強くなったと思います。

娘が小学4年生なのですが、学校の教育も変わってきており、主体性が重んじられ、探求活動を取り入れているので、今後接点をつくっていけると良いなと感じ始めています。



Yさん  
特別支援級補助教員/母  
2019-2021年度参加

プログラムへの参加を繰り返す度に、自分の役割と参加の深度と理解が増し充実感がありました。チームでつくり上げる当日の一体感が良かったです。音楽を軸にしたワークショップというものを知りたくて参加しましたが、それを学ぶことができ、身体表現とどう組み合わせるのかも、ファシリテーションを横で見て学ぶことができました。伝えたいものの軸、やりたいものの軸がぶれない、その軸を体験させてもらったのが良かったです。

そのときどきの参加メンバーが違う中で、そのときどきの人の視点や持ち味を一生懸命拾おうという姿勢が崩れなかったのも、参加している満足感に繋がっていると思います。また機会があれば参加したいです。



Hさん  
文化財団職員/音楽家(歌)  
2020-2021年度参加

酒井さんと山崎さんは(ワークショップ中)アイデアを聞く時間や話す時間を長くとっていました。脱線しつつもまとまる場所はまとまり、大事にしたいポイントを押さえつつ、参加してるみんなが楽しくというところを大事にして、歩きながらちゃんと答えが出せるのがすごいなと感じ、自分の活動の中で取り入れたいなとは思いつつも、1年目は現実と戦ってる感じでした。2年目は、墨田区実践と足立区実践に参加しました。墨田区実践では、チームファシリテーションを体験し、その場で起きている面白いことと進行とのバランスに迷いを感じました。足立区実践では、現場で使用するプロップスがないということが発覚し、そこで受講生同士でアイデアを出し合って解決したことが印象に残っています。

今は、ワークショップでできることを合唱の場にも還元したいと思いつつ、合唱活動ではある程度同じ水準まで歌う技術をもっていかないといけないということが原則にあり、どうしても溢れちゃう子が出てくるといった問題に直面しています。もうひとつ枠組みをプラスしないと現実的には難しい面があると感じています。



Iさん  
社会人(教育系)  
2020-2021年度参加

私は音楽大学を出ていないので、参加当初は「実際に音楽を学んできた方がやるワークショップとは」「自分に足りない音楽の接し方とは」と考えながら受講していました。

1年目は、ワークショップのつくりかたを学び、音楽を知っているからこそできることもあるけれど、参加する人にどうなってもらいたいかを考えることや、参加したことで生まれるものもすごく大事、それがないとどんなワークショップも成り立たないということを感じました。

2年目の足立区実践には、これまでに得たものを還元できたらと思い参加しました。また、ファシリテーターではない役割の存在を知り、今後ワークショップに参加するときの居かた、どういうことで役に立っているのかが分かり、達成感がありました。同時に、世の中に役立つ、有意義なことであると、魅力を感じています。

ムジタンツのみなさんもメンバーの一員のように迎えてくださり、深く関わられたことでより充実した時間を過ごすことができました。私は教育関係の仕事をしており、学校ではない場所での子どもたちの学びの場づくり、成長に興味があります。学びについての理論は特に面白さを感じました。

受講のきっかけは音楽をより楽しく伝えられる「ファシリテーション」を学びたいというものでしたが、今後はより楽しく学びのある「プログラムづくり」の理解を深めたり、活かしていきたいです。



Tさん  
音大大学院生/ピアニスト  
2020-2021年度参加

体験する前までは、何をどのように行うのかが不明でしたが、やってみて、音楽の仕組みがどうなっているとか、動きやゲームを体験して分かったことがありました。ブラームスのヴァイオリンソナタですが、「空気のボールを回す」アクティビティは、アンサンブルを行う人間として役に立つことでした。これはいい例だと思い、その場で体験しないと分からないことが学べて有意義でした。2021年度の墨田区のワークショップ内容は、音楽を専門とする人もしない人もアンサンブルに活かせると思います。そういうことを実際やってみて分かりました。生活に意味があることや、遊びなどをやっていって音楽の理解が深まるんじゃないかと思いました。

事務局から

2019年度から2021年度にわたって活動してきたアトリエ・ムジタンツ。経験したことを少しでも形に留めたいという想いで、この記録集を作成しました。新型コロナウイルス感染症の影響を直に受けることになったこの3年間、辿った道は「コロナ前」でも「コロナ禍」でも紆余曲折、試行錯誤の連続でした。冒険や遠回りもたびたびありましたが、こうして振り返ってみると本当に多くの貴重な出来事であふれていました。日々のやりとりの中にも、本質を突くような瞬間、大事な問いが生まれる瞬間、アイデアが生まれる瞬間、そして何に繋がるとも分からないけれど単純に面白いと感じられる瞬間がたくさんありました。それらは一見するとなんてことない事柄だったりするのですが、私たちにとってはその一つひとつがまるで宝石に匹敵するくらいに、大切に思えます。

そうした瞬間たちの全てを残すことは叶いませんが、文章ではこぼれ落ちてしまうような機微もなんとかお伝えできないかと考え、アトリエ・ムジタンツのチラシやキャラクター「ムジタン」のデザインでもお世話になった進士遥さんをお願いをして、多くの部分を漫画で描いてもらうことにしました。改めて見返すとまるでコメディや笑話のような場面が多々あり、そんなところにも「アトリエ・ムジタンツらしさ」が表れていると思っています。ぜひ細部にも注目しながら、お読みいただけたら幸いです。

クラシック音楽の世界で育ちながら、その界隈の閉塞感にモヤモヤを感じ、一歩外に出てみた酒井。いっそのことクラシック音楽で「遊んでみよう」という気持ちで、2018年に「ムジタンツ」を始めました。そこに加わってきた山崎との協働作業は、互いに異なる感性や観点をすり合わせながら、プログラムを届ける相手にとっての「面白さ」とは何なのかを一から探究するものとなっていきました。

クラシック音楽の作品を分解したり、結合したり、あるいはコネコネと練ってみたり。時折、「こんなことして作曲家が怒らないだろうか」

と気にしつつも、私たちごときが少しばかり解体したぐらいでは揺るがない「古典」への信頼感があるからこそ、どこまでも大胆にこの作業を行うことができている気がします。

さらに、アトリエ・ムジタンツでは「地域とアートを繋ぐこと」をひとつのテーマとしてきました。あえて私たち目線で言うと、様々な人や場と出会い、多様な関わりをしながらプログラムづくりや実践をつづけることによって、限られた人だけで考えていては打不开できない何かを越えていく糸口が見えるのではないか、という予感と希望がありました。

アトリエ・ムジタンツの事務局には、「場づくり」について丁寧に考えつづけている石川も加わりました。公募メンバーを迎え、さらに具体的な実施へ向けたプロセスにどのように参画してもらえるだろうか。メンバーの関係性を含めた場づくりと、プログラムづくり。そのふたつが、アトリエ・ムジタンツを構成する両輪となりました。

ファシリテーター、コーディネーター、事務局の役割を三者三様に行き来し、探り合いながら進んでいく様子は、かなりスリリングで散らかった「アトリエ=作業場」だったのではないのでしょうか。そんな混沌とした場に対して、メンバーのみなさんは積極的に加わってくださり、何かを発見したり気づきを得たり、さらには場を補助してくれたり先導してくれたり、ほんとうに様々な関わりをもってくれました。私たちが想定していた以上の関係性が醸されてきたことに、驚きと同時に心からの嬉しさを感じています。

たくさんの方々とともに歩みをつづけてきた3年間。その全てを総括することはできませんが、ここでアトリエ・ムジタンツとっておきの「宝」をご紹介します。おきたいと思えます。



ひとつ目は、関わってくださったみなさまの「目」です。事務局 3 人の「ものの見かた」、「着眼点」、「目指す方向性」もそれぞれ少しずつ違っているのですが、公募メンバーが参加してくれるようになり、さらに多様な観点が加わることになりました。このことによって「面白さ」の探求はさらに多層的で広がりのあるものになり、ムジタンツのプログラムの特徴ともいえる「柔軟性」や「可変性」も明らかに、ときには予想をはるかに越えていくほどの勢いで、増していくことができたと思います。

また、自治体職員の方々や連携施設の方々との話し合いからも、たびたび重要な観点を頂戴しました。彼らの言葉なくしては、アトリエ・ムジタンツの活動で実施したどのプログラムの種も、得ることはできなかったでしょう。

ふたつ目は、「相互作用」です。アトリエ・ムジタンツを形容するものとして、もっとも口にされるといっても過言ではない単語に「ゆるゆる」があります。これは効率性や合理性を目指すこととは真逆ともいえる様子を表す擬態語ですが、そのような時間の中にこそ「相互作用」が生まれる余地があるのではないかと、とも思います。あえて名付けて行っていた「ゆるゆるミーティング」の場のみならず、リハーサルや振り返りの会、そして実施の場においては当日の参加者との間にも、それは起こっていたのではないのでしょうか。

決してスムーズには進まないアトリエ・ムジタンツのプログラムづくりに参加してくれた公募メンバーのみなさんは、さぞかし戸惑いやもどかしさを感じていたことかと思えます（にも関わらず、懲りずに関わってくださったことに感謝の気持ちでいっぱいです）。しかしながら、「ゆるゆる」から生まれる受容のありかたが私たちの目論見以上に様々な場で生きていたことに、改めて感慨深さを覚えています。

-----

おわりに、3 年間の活動に関わってくださったお一人お一人に、改めて感謝を申し上げます。アトリエ・ムジタンツでの出来事が、みなさんそれぞれにとっての何かの芽となっていれば嬉しい限りです。

「ムジタンツ」はまだ始まったばかりです。ここでのご縁を大切に、この先も試行錯誤や実験をつづけていきたいと思えます。この本を手にとってくださったみなさんとも、いつかどこかで一緒にできることを楽しみにしています。



2022 年 3 月  
アトリエ・ムジタンツ事務局  
(写真左から：石川 清隆、山崎 朋、酒井 雅代)

2019年度～令和3年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業  
「2020の先にある新たな文化政策を実現するための広域連携  
について思考し実践する人材育成講座 Meeting アラスミ！」  
実践編①

## アトリエ・ムジタンツ

実施期間 : 2019年5月～2022年3月

事務局 : 石川 清隆、酒井 雅代、山崎 朋

アドバイザー : 熊倉 純子、箕口 一美

主催 : 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科

後援 : 足立区、墨田区、台東区

協力 : 「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会、  
興望館保育園、台東区の子育てを支え合うネット  
ワーク(たいとこネット)、日本ホーリネス教団  
上野教会、ボルテあすなろ、ボルテホール連絡  
協議会、両国門天ホール、  
野村 誠

演奏協力 : 南條 由起

記録 : 鐘ヶ江 織代

記録撮影 : 平舘 平、中川 周、西村 明也

テクニカル  
サポート : 庄子 渉、中野 哲

### Meeting アラスミ！とは

Meeting アラスミ！(=around すみだ川)は、東京藝術大学  
大学院国際芸術創造研究科がすみだ川界隈の地域において、  
「地域の文化芸術を推進するプラットフォーム」、「地域の連  
携・協働を推進するプラットフォームの形成」に着目し、先進  
的な事例に取り組む自治体・団体と協力して学びと実践の場  
を提供する人材育成プロジェクトです。

### アトリエ・ムジタンツ

2019-2021年度 記録集

～ムジタンツとなかまたち～

編著 : 石川 清隆、酒井 雅代、山崎 朋

写真 : 平舘 平、中川 周

デザイン・イラスト : 進士 遙

印刷 : 株式会社サンコー

発行日 : 2022年3月31日

発行 : 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科

〒120-0034 東京都足立区千住 1-25-1

TEL 050-5525-2727

<http://ga.geidai.ac.jp>

©2021 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科

©2021 ムジタンツ

ムジタンツ musitanz@gmail.com

